

一般社団法人 兵庫県社会福祉士会

2021 年度事業報告

『総括』

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、2021 年度においても収束することはなかった。度重なる「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」により、人々の往来や生活が制限される事態となり、本会の運営や活動にも多大な影響が生じた。

本会の事業は研修事業が大半を占めているが、このような状況の中でも専門職として必要な「学び」を止めないことを基本方針として、オンラインでの開催を中心に事業を実施した。オンラインでの研修開催は、昨年度からの経験はあるものの参加された会員や研修講師、担当委員会そして何より事務局の皆様の協力があったからこそ実施できたものであり、ここに改めて深く感謝申し上げる。

また、本会の啓発・交流活動の「ソーシャルワーカーデー」は、昨年に引き続き中止となったが、オンラインにて開催したソーシャルワーク関係 5 団体合同研修「ヤングケアラーの支援とは」は、149 名の盛況にうちに終えることができた。しかし、オンラインでは「交流」ということに関して、内容等でも限界を感じた。

一方、兵庫県や神戸市等からの受託事業の推進については、会員の参画と協力を得ながら実施することができた。特に、避難行動要支援者の個別避難計画を作成する防災と福祉の連携による事業は全国に紹介される機会にも恵まれ、他県の自治体からの問い合わせと共に、実際に講師等の派遣やプログラムの提供などに繋がったことは、大きな成果であったと言える。

本会の収支の状況は、引き続き事業の見直しや研修開催時の最少催行人数制の導入等により経費の削減を行った。県や各市町等からの受託事業により、約 1,300 万円の黒字となり 4 期連続して黒字を確保することができました。

しかし一方、会員数はコロナ禍の影響もあり 2022 年 3 月末現在は 1,715 名であり、昨年度末より 27 名の微増に留まった。今後、日本社会福祉士会の入会促進事業や本会独自の事業を積極的に進めながら、社会福祉士の認知度向上を図っていくことが必要である。

新型コロナウイルス感染拡大の収束が不透明な中で、感染拡大に対する不安や休業・業務縮小による生活困窮などが、特に社会的に弱い立場の方々により厳しくなっている。私たち社会福祉士は、このような社会状況の中であってこそ、社会福祉の専門職としてその本来の役割ともいえる支援が必要な方々に寄り添いながら、適切な支援を行う必要がある。本会は、社会福祉士への支援として、会員の資質向上のための研修体系や研修方法の確立とともに、新しい生活様式を念頭に置きつつ事業の運営を進めていく必要がある。

事務局 報告

1 第24回 総会の開催

期 日： 2021年6月26日（土）
会 場： 兵庫県福祉センター 1階多目的ホール/Zoom
議 題： (1) 2020年度事業報告（案）について
(2) 2020年度決算報告（案）ならびに監査報告について
報告事項： (1) 兵庫県社会福祉士会 2020・5カ年発展計画第2期中期計画について

2 第25回 総会の開催

期 日： 2022年3月26日（土）
会 場： 兵庫県福祉センター 1階多目的ホール/Zoom
議 題： (1) 会費に関する規則の改正について
(2) 2022年度事業計画（案）について
(3) 2022年度予算（案）について
報告事項： (1) 2021年度補正予算について

3 記念講演会

期 日： 2022年3月26日（土）
会 場： 兵庫県福祉センター 1階多目的ホール/Zoom
演 題： 「社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範について」
講 師： 前嶋 弘 氏（日本社会福祉士会 倫理綱領行動規範伝達研修プロジェクトチーム・本会会員）
土谷 長子氏（日本社会福祉士会 倫理綱領行動規範伝達研修プロジェクトチーム・本会会員）

4 2020年度 理事会の開催

第1回	5月15日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第2回	6月26日（土）	兵庫県福祉センター 1階多目的ホール
第3回	7月17日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第4回	10月30日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第5回	12月18日（土）	兵庫県福祉センター 202会議室
第6回	1月15日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第7回	2月19日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第8回	3月26日（土）	兵庫県福祉センター 1階多目的ホール

その他 報告事項

1 各種大会・研修会・会議などの参加

- ・日本社会福祉士会総会、日本社会福祉士会会長会議、生涯研修委員会議、日本社会福祉士会各委員会、近畿ブロック代表者会議 等

2 本会推薦（2021年度）主なもの

日本社会福祉士会	理事	中山 貴之	本会副会長
日本社会福祉士会 こども家庭委員会	委員	田邊 哲雄	本会会員
日本社会福祉士会 生活困窮者支援委員会	委員	近藤 健太	本会会員
日本社会福祉士会 基礎研修開発プロジェクト	チームメンバー	土谷 長子	本会理事
兵庫県社会福祉協議会	評議員	谷口 弘	本会会長
兵庫県社会福祉協議会 権利擁護部会	委員	谷口 弘	本会会長
兵庫県社会福祉協議会 社会福祉研修委員会	委員	谷口 弘	本会会長
兵庫県社会福祉協議会 福祉人材センター運営委員会 及び福祉人材確保推進協議会	委員	中山 貴之	本会副会長
兵庫県社会福祉協議会 兵庫県福祉サービス運営適正化委員会 選考委員会	委員	中山 貴之	本会副会長
兵庫県社会福祉協議会 兵庫県福祉サービス運営適正化委員会	委員	田島 啓子	本会会員
兵庫県社会福祉協議会 日常生活自立支援事業契約締結審査会	委員	乾 なち子	本会会員
社会福祉法人兵庫県共同募金会	第三者委員	谷口 弘	本会会長
社会福祉法人経営等審査会	委員	西野 佳名子	本会会員
兵庫県リハビリテーション協議会	理事	谷口 弘	本会会長
兵庫県プライマリ・ケア協議会	監事	谷口 弘	本会会長
兵庫県介護支援専門員協会 倫理特別委員会	委員	増山 陽子	本会理事
兵庫県立高等学校におけるいじめ重大事態調査委員会	委員	馬場 幸子	本会会員
神戸市社会福祉協議会 成年後見判定委員会	委員	岡田 誠	本会相談役
神戸市介護認定審査会	委員	柘田 節子	本会会員
	委員	増山 陽子	本会会員
	委員	加戸 陽子	本会会員
	委員	乾 なち子	本会会員
	委員	岸本 裕子	本会会員
	委員	原 信行	本会会員
	委員	榎本 昌起	本会会員
こうべ安心サポート委員会	委員	植田 京子	本会会員
権利擁護事業部会 事業運用審査委員会	委員	榎本 昌起	本会会員
	委員	山本 勝之	本会会員
神戸市市民福祉調査委員会	特別委員	増山 陽子	本会理事
神戸市地域包括支援センター運営協議会	委員	山内 賢治	本会会員
神戸市高齢者虐待防止連絡会	委員	田島 啓子	本会会員
神戸市消費生活会議	委員	植田 京子	本会会員
神戸市生活困窮者自立支援事業等委託団体審査委員会	委員	西野 佳名子	本会会員
三木市成年後見支援センター運営協議会	委員	谷田 芳浩	本会会員
三木市地域包括支援センター運営協議会	委員	木村 由子	本会会員
高砂市地域包括支援センター運営協議会 及び地域密着型サービス運営委員会	委員	宇都宮 ゆか	本会会員
加古川市いじめ問題対策委員会	委員	三木 一子	本会会員
加古川市自立支援給付審査会	委員	村上 弘幸	本会会員
	委員	森保 純子	本会会員
加古川市成年後見制度利用促進及び権利擁護制度検討委員会	委員	樹下 和幸	本会委員
姫路市地域福祉計画策定会議	委員	伊東 圭一	本会副会長
姫路市ホームレス自立支援実施計画懇話会	委員	酒井 淳子	本会会員
姫路市成年後見支援センターネットワーク会議	委員	魚住 剛	本会理事
姫路市高齢者虐待防止ネットワーク会議	委員	橋本 真輔	本会会員
川西市成年後見支援センター運営委員会	委員	木高 壽子	本会会員
明石市後見支援センター受任調整委員会	委員	森保 純子	本会会員
西宮市高齢者・障害者権利擁護支援センター運営委員会	委員	西川 圭一郎	本会会員
丹波市いじめ問題専門委員会	委員	田邊 哲雄	本会会員
播磨町権利擁護支援体制整備検討委員会	委員	森保 純子	本会会員
高砂市成年後見制度利用促進計画策定委員会	委員	山里 護	本会会員

委員會報告

1 総括

今年度も新型コロナウイルス感染拡大による「緊急事態宣言」並びに「まん延防止等重点措置」の影響を受け、研修はオンライン型や、集合とオンラインをミックスしたハイブリッド型で開催した。

基礎研修は今年度も Zoom での開催となり、必要に応じてファシリテーター等で運営に協力した。

「福祉専門ゼミナール（愛称：こうのとりゼミ）」は、今年度も Zoom で開催。2020 年度後期と同様に共通テーマを設定し、3つの講座に関連性を持たせたことで、3回とも受講する方が増加した。

「マインドフルネス連続講座」はハイブリッド型で実施。インターネットの接続が途切れるといったトラブルも発生し、運営の難しさにも直面した。しかし、最新の知見を交えた質の高い内容で、受講者の満足度は高く、専門職のストレスケアに貢献することができた。

会員交流事業も Zoom で開催。無料のアプリケーションを活用した「オンライン名刺交換」や、自宅にある物などの紹介を兼ねた「オンラインしりとり」など、会員同士が直接対面できずとも親睦が深められるよう工夫した。

委員会も基本的に Zoom で毎月実施。前年度からの課題であった委員の IT スキル向上にも取り組んだ。

想像以上に長引くコロナ禍で、会員の学びや交流の機会を止めることなく提供できたことは、一定の成果であったと考える。

2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	24	14名	Zoom	ファシリテーター説明会
5	14	13名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>前期① 「スクールソーシャルワークのこれから ～先進国アメリカから学ぶ～」 馬場 幸子 氏（関西学院大学人間福祉部）
6	11	15名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>前期② 「神戸地方検察庁における入口支援の現状について」 笹倉 則明 氏・福留 奈央 氏（神戸地方検察庁）
7	9	12名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>前期③ 「今どきの薬剤師って知ってる！？」 ～薬剤師と福祉の連携のために～」 桂木 聡子 氏（兵庫医療大学）
8	9	30名	Zoom	会員交流事業「オンライン納涼会」
11	12	26名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>後期① 「ゼロ歳児からの福祉 ～乳児院（神戸少年の町）の取り組み～」 宮本 由紀 氏（神戸少年の町乳児院）
11	10	42名	神戸市勤労会館 および Zoom	マインドフルネス連続講座 講師：池埜 聡 氏（関西学院大学）
12	17			
12	24			
12	1			
12	8			
12	15			
12	10	22名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>後期② 「スクールソーシャルワークの耀き ～尼崎市における養育支援・ヤングケアラー支援～」 黒光 さおり 氏（尼崎市こども青年局）

12	18	14名	Zoom	会員交流事業「オンライン忘年会」
1	14	28名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>後期③ 「発達障がい～子どもと家族をまるごと支えるために～」 嶋崎 まゆみ 氏 (兵庫教育大学大学院)

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	3	9名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
5	22	12名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
7	31	8名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
9	4	10名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
10	2	6名 11名	兵庫県福祉センター 自宅・兵庫県福祉センター等	オンライン作業の確認・練習 研修・行事の企画調整 (Zoom)
11	27	9名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
1	15	10名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
2	5	6名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom) 委員長交代に係る事務分担調整
2	26	11名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
3	19	8名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)

1 総括

今年度は、個別指導等を通して実践研究・発表を行える会員の増加を目指すためのソーシャルワークアカデミー (S. W. A) や、近畿ブロック研究研修大会や日本社会福祉士会全国大会での発表を目指して研究する会員の腕試しの場としての実践研究報告会の開催を計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大による「緊急事態宣言」並びに「まん延防止等重点措置」の影響を受け、参加希望者が少なかったため、開催を断念した。

年度後半は次年度の研修開催に向けての準備期間とした。

2 事業報告

- ・ ソーシャルワークアカデミー：開催中止
- ・ 実践研究報告会：開催中止

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	3	6名	Zoom	2021年度計画の確認と変更
7	24	7名	兵庫県福祉センター	今年度事業計画の実行方法について
8	28	6名	Zoom	研修開催について
10	8	5名	Zoom	研修会開催について
10	13	7名	兵庫県福祉センター	来年度活動について
3	30	5名	Zoom	来年度体制について

1 総括

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、社会福祉士国家試験対策講座をオンラインで開催した。他府県士会と近畿ブロック会議の実施は見送ったものの、試験当日の激励・労い、試験解答速報作成、オンライン合格祝賀会、養成校への講師派遣など受講生の受験に直結する内容は概ね実施することができた。一方で、ここ2年間講座受講申込者が3年前の約3分の1程度に激減している。原因と改善策を議論し、次年度に向けて、より多くの受験生に受講してもらえよう重層的に対策を講じていく。

(1) 国家試験受験対策講座の開催と試験日までのフォローアップ

当委員会の主たる事業である「社会福祉士受験対策講座」は、8月～10月に掛けて計5日間オンラインで開催した。社会福祉士の受験科目19科目を開講し、受講者は計22名であった。

受講料の学生割引等により、昨年度よりもさらに受講しやすい料金設定を行ったが、受講者数の観点からは効果が見られなかった。

本会ホームページ内、受講生専用Webサイト上の交流掲示板にて試験勉強の相談や模擬試験・受験対策の心得を発信し、開講前から試験合格発表まで受講生のフォローアップを行った。

(2) オンラインと集合型を併用した活動

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大状況によってオンラインと集合形式の活動を併用する結果となった。2020年度にオンライン開催に携わった委員を中心に事務局と連携し、関係各位の理解と支援によって、講座は滞りなく開催できた。

また、2022年2月試験当日には、試験の激励・労いに感染対策を講じて実施した。その後委員参集し、当委員会で「解答速報」を作成し、当夜には上記専用Webサイトに掲載した。

(3) 社会福祉士養成校等との連携、要請に応じた受験対策支援

養成校等との連携は、神戸女子大学（全科目）と関西学院大学（4科目）の講師派遣依頼があり、講師を派遣した。また、地区ブロックにおける自主ゼミ開催にあたり、全日程7日間ゼミチューターを派遣した。

(4) 近畿ブロック他府県士会との連携

近畿ブロックとの連携については、2021年度近畿ブロックの国家試験対策担当者会議は、残念ながら開催することができなかった。

コロナ禍の中で、この会議の意義を確認・共有することで会議を再開させ、近畿ブロック他府県との情報交換や連携を図っていく必要がある。

(5) 入会促進（合格祝賀会の開催）

2021年度はオンライン合格祝賀会を開催し、昨年お祝いできなかった2019年度合格者と2020年度合格者を合同でお祝いした。会の雰囲気や開催規模的に丁度良く、合格者には大変喜んでいただき、入会者もあった。今後も入会促進に貢献できるよう継続したい。

(6) 改善すべき課題とその対策について

①講座受講者数の減少

2021年度社会福祉士受験対策講座の受講生は、例年を大幅に下回り、実施の可否を検討する状況に至った。コロナ禍以外の原因としては、広報・周知不足が挙げられた。対策としては、「開催要項を早期に作成・配布する」「配布先を見直す」「研修等で配布できるビラを作成し、置いてもらう」

「本会会員への配布依頼及び他の専門職団体の後援を得て、より効率的に受験者に情報を届ける」など重層的に対策を講じることにより、より多くの受験生に受講してもらい、未来の社会福祉士養成と本会への入会促進に繋げていきたい。

②Webサイトの運営について

2021年度は例年以上に講師からの模擬問題出題や受験生への激励など委員や講師からの発信を増やしたが、受講生からの反応が非常に少なく、講座終了後試験日までのフォローアップが十分にできているとは言えない状況であった。原因としては、情報発信ツールが変化していることで、受講生の目に触れにくいことが挙げられた。対策としてWebサイトは廃止し、新たなSNSを活用したい。

2 事業報告

『社会福祉士合格祝賀会』

日 時：2021年4月25日（日）12：00～14：00
場 所：Zoomによるオンライン、スタッフ拠点は兵庫県福祉センター
参加者：合格者6名（2019年度3名、2020年度3名）、役員・スタッフ計12名

『社会福祉士オンライン受験対策講座の開催』

日 程：2021年8月22日、29日、9月12日、26日、10月3日 計5日間
時 間：9：00～17：00
場 所：Zoomによるオンライン、スタッフ拠点は兵庫県福祉センター
申込者数：1. 社会福祉士共通コース 21名
2. 社会福祉士専門コース 1名 計22名
－社会福祉士受験対策講座の合格率－講座参加者数の減少により算定不可

『社会福祉士国家試験 統一模擬試験』

日 時：2021年10月31日（日）10：00～15：30
場 所：在宅受験

『合格祈願参り』

日 時：2022年1月30日（土）
場 所：稲美町天満神社（委員長のみ）

『①社会福祉士試験日当日の激励とねぎらい』

神戸国際展示場、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス 計6名

『②第34回社会福祉士国家試験 解答速報作成』

日 時：2022年2月6日（日）①8：00～16：00 ②12：00～20：00
場 所：神戸女子大学ポートアイランドキャンパス、集合10名・オンライン4名

『講師・チューター派遣』

2021年12月～2022年1月 神戸女子大学直前対策講座への講師派遣（19科目）
2022年1月 関西学院大学試験対策講座への講師派遣（4科目）
2021年10月～2021年1月 阪神ブロック自主ゼミ（オンライン）チューター及び合格体験談派遣

『社会福祉士国家試験 直前対策講座』『近畿ブロック国家試験対策委員会担当者連絡会』開催中止

『委員会』 年12回開催

- ①2021年4月25日（日）オンライン・10名 合格祝賀会の進行最終確認
- ② " 6月6日（日）オンライン・講師11名、委員4名 講師会議、講座開催形式について
- ③ " 7月18日（日）オンライン・8名 講座申込状況、講座開催検討、スタッフ当番・役割
- ④ " 8月8日（日）オンライン・11名 講座開催可否の決定、スタッフ当番・役割確認
- ⑤ " 9月12日（日）オンライン・12名 講座開催状況・減少要因検討、直前対策講座開催中止
- ⑥ " 10月3日（日）オンライン・4名 次年度事業計画、自主ゼミ、講師派遣について
- ⑦ " 10月24日（日）オンライン・6名 2022年度事業計画、予算案について
- ⑧ " 11月21日（日）オンライン・6名 忘年会
- ⑨ " 12月16日（木）オンライン・12名 2022年度事業計画・予算案について（再検討）
- ⑩2022年1月9日（日）福祉センター・9名 試験当日の活動（激励、解答速報）について
- ⑪ " 年2月27日（日）オンライン・10名 講師11名、委員4名 講師会議
- ⑫ " 年3月20日（日）オンライン・12名 事業報告・決算報告、名簿、合格祝賀会について

1 総括

2021年度は前年度からの新型コロナウイルス感染症防止策の影響を受け、会議と機関紙「このとり通信」作りの作業はオンラインで行った。また、昨年同様、広報誌も、取材等を自粛することにより年度内の発行を見送った。

会員に有益な情報を届けることができる魅力ある紙面づくりを目指しているが、残念ながら紙面への寄稿は少なく、研修等の実施報告も寄せられる数は減ってきている。いくらかがFacebook上で報告されている為、Facebook上の投稿から紙面の記事を作っているが、それでも実施されている研修やイベントから考えると、報告やお知らせの数は少ない。次年度は、会員が積極的に参加して紙面をつくることを検討したい。

職能団体の機関誌は会員の活動を支えるための資源であり、また媒体の発行はソーシャルアクションにつながる活動であるため、直接に間接に、社会福祉の実現に大きく寄与できるものであると言える。

いずれにしても、広報活動は広報委員会だけで完結するものではなく、全会員に参加していただき作り上げるものである。次年度は、より参加しやすい広報活動を意識し、広く社会へ発信できる広報を務めていきたい。

2 事業報告

- (1) 会員機関誌「このとり通信」の発行
(年4回 No.106 春号4月 No.107 夏号7月 No.108 秋号10月 No.109 新春号1月)
- (2) ホームページ及びFacebookの運営、会員機関誌・ホームページでの広告スペースの提供
- (3) 兵庫県社会福祉士会メーリングリスト(ひよこML)の運営
登録者数：840人(2022年3月31日現在) 新規登録者数：85人(2021年度)
- (4) 委員会の開催(4回)

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場所	内 容
6	5	7名	Zoom	このとり通信夏号について
9	4	7名	Zoom	このとり通信秋号について
12	4	8名	Zoom	このとり通信新春号について
3	5	7名	Zoom	このとり通信春号について、次年度の委員会について

1 総括

2021年度は「福祉なんでも相談」を活動の要とし、相談事業の継続・充実を図ることに加え、委員会メンバー同士の情報交換を密にし、それぞれの職場での相談スキルの向上を図ることも活動の目的とした。2020年度に続きコロナ禍の影響で、集合しての定例会・勉強会が開催できずオンラインでの定例会・勉強会の開催となったが、委員会メンバーもオンラインでも距離を感じることなく意見交換ができるようになってきたことを感じている。

このような中で、福祉に関する相談援助に必要な福祉関連の制度改正に対する迅速な対応をすること、専門分野によるメンバー同士の役割分担を明確にし、知識向上と専門性を高めスキルアップを図るために、オンラインと集合型を合わせた勉強会を継続して実施した。また、年に1回は県士会会員を対象とした経験交流会を開催し、相談委員会活動の周知と共に人材の育成を視野に入れた活動を続けていく。

2 事業報告

(1) 「福祉なんでも相談」、「役員会・定例会・勉強会」

当委員会はこの「福祉なんでも相談」を活動の要とし、毎月1回第2土曜日13:00～16:00に福祉センター内当会事務局にて福祉の相談援助活動を行っている。

「福祉なんでも相談」についての実績については以下のとおり。

日時	場所	内容	相談件数	備考
4月10日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
5月8日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会」	0件	相談員2名
6月12日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
7月10日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会」	1件	相談員2名
8月14日(日) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
9月11日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・」	1件	相談員2名
10月9日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
11月13日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・」	1件	相談員2名
12月11日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
1月8日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会」	0件	相談員2名
2月12日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
3月12日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「何でも話そう座談会」	0件	相談員2名

(2) 相談業務経験交流会「何でも話そう座談会」

開催日時 2022年3月12日(土) 13:30~15:30

本会会員たちが様々な分野において相談業務に携わる中で、連携の重要性や困難事例への対応のコツなどを発表し話し合い経験を共有することで、参加者同士の交流を深め、ネットワークを広げ、お互いのスキルアップを図るものである。昨年に続き2回目の開催であるが、相談業務のジレンマの共有や情報共有が行えること、参加者の「ストレスの軽減になった」との感想などから支援者支援としての手ごたえを感じている。

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	8	7名	兵庫県福祉センター ハイブリット型	定例会：2021年度役員体制について ミニ座談会：後見活動とコロナ
7	10	9名	兵庫県福祉センター ハイブリット型	定例会：電話当番割り振り ミニ勉強会：生活困窮者支援
9	11	7名	兵庫県福祉センター ハイブリット型	定例会：電話当番割り振り ミニ勉強会：障害者施設での困りごと
11	13	3名	兵庫県福祉センター ハイブリット型	定例会：相談業務経験交流会 「何でも話そう座談会」企画
1	8	3名	兵庫県福祉センター ハイブリット型	定例会：相談業務経験交流会 「何でも話そう座談会」役割分担
3	12	9名	兵庫県福祉センター ハイブリット型	定例会：相談業務経験交流会 「何でも話そう座談会」実施

1 総括

当委員会では、学んできた理論を実践の場で活用すること、また実践を理論化していくことにより根拠のある支援を行うことを目指している。

学習会の開催により、学びあう姿勢を大切に、ソーシャルワークの在り方を再確認する場としている。また、必要に応じてこの「場」を広く知ってもらうために研修会も行っている。

2 事業報告

委員会は2ヶ月に1回のペースで開催。委員会と学習会を開催している。

学習会ではテーマを参加者が出し合い、相互に意見交換をして学び合う。ソーシャルワーカーとしての関わりを理論に照らして言語化し、日々の実践を理論に基づいたソーシャルワークとして振り返る。ソーシャルワーカーとしての知識、技術の向上に日々努めている。

本年度は兵庫県社会福祉セミナー分科会に参加。事前準備を通して、そして、当日は参加者と共に、学びを深めることができた。

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	18	10名	Zoom	Zoom 練習会・打合せ
5	9	20名	Zoom+福祉センター	委員会 学習会「クライアントをシステムで見る必要性を考えさせてくれた事例」「専門職って何ですか？」
6	13	8名	Zoom	Zoom 練習会・打合せ
7	11	10名	Zoom+福祉センター	委員会 学習会「福祉セミナー分科会で扱う事例の作成」
8	8	15名	Zoom	Zoom 練習会・打合せ
9	12	20名	Zoom+福祉センター	委員会 学習会「福祉セミナー分科会予行練習」
10	16	11名	Zoom	Zoom 練習会・打合せ 18
10	23	16名	Zoom+福祉センター	兵庫県福祉セミナー 第2分科会参加
11	14	10名	Zoom+福祉センター	委員会・10/23 福祉セミナーの反省会 ・来年度の学習会開催方法とテーマについて
1	9	14名	Zoom+福祉センター	委員会 学習会「真の受容とは何かを考えさせてくれたOさん」
3	13	15名	Zoom+福祉センター	委員会 学習会「専門職と価値観の大切さを教えてくれたI先生」

1 総括

前年度に引き続き 2021 年度は、『高齢者虐待対応力向上研修』『障害者虐待対応力向上研修』の主管を兵庫県より受託し、習熟度や行政機関、サービス事業所など対象者別にプログラムを作成し実施した。コロナ禍により A 研修はオンデマンド開催とし、B・C・D 研修は集合スタイルで演習中心に実施できた。

2 年間実施していなかった認証研修「高齢者虐待対応研修」もスタートが遅れたものの実施できた。

また、虐待対応専門職チームの利用促進のため契約している市町との『虐待対応専門職チームの派遣要請等に関する意見交換会』や市町への電話でのワーキング活用促進依頼を実施した。神戸市へは高齢者虐待のみでなく障害者虐待についてもワーキングチーム派遣を行った。2021 年度は講師・アドバイザー派遣及び研修事業の運営が主な活動となった。

2 事業報告

(1) 高齢者虐待専門職チーム派遣の契約市町（播磨町、加東市、稲美町、神戸市、多可町、西脇市、南あわじ市、豊岡市、姫路市、丹波市、朝来市、三田市、淡路市 計 13 市町）と派遣実績

- ・ 契約市町との虐待対応専門職チーム派遣要請等に関する意見交換会:6/9(ハイブリット開催)
出席市町：神戸市、播磨町、稲美町、西脇市、多可町、姫路市、丹波市

- ・ アドバイザー派遣

神戸市	4/1・4/12・5/18・8/23・10/8・10/13・10/15・11/5・11/18・1/26・3/18
多可町	7/5
姫路市	10/22
太子町	3/3
淡路市	3/30

(2) 講師派遣等実績

6/24	神戸市社協	7/12	神戸市（高齢）
3/18			
9/25	NPO 法人・絆	10/20	神戸市
		12/16	（あんしんすこやかセンター）
9/24・3/21	愛しや	12/10	姫路市（地域包括対象）
10/19・26	優和会		川西市（障害事業所対象）
11/3	ケアホームすばる	11/5・11	
11/4	伊丹市（障害）		北摂三田の里
11/17・25	すみれ苑		
11/11・2/2	高砂市 （地域包括支援センター職員）		
	サルビアの家		
12/10	ネットワーク神戸 湊川 HP 在宅事業部		
1/25	NPO 法人 かめのすけ		
3/5	玉津あんしんすこやかセンター		
3/10	西谷地域包括支援センター		

- (3) 兵庫県弁護士会高齢者虐待対応専門職チームとのワーキング
- 4/28 県委託事業等について検討・派遣報告 弁護士会館・Zoom
 - 5/5 オンライン勉強会（派遣振り返り） 弁護士会館・Zoom
 - 6/9 契約市町との意見交換会・県委託事業について 弁護士会館・Zoom
 - 7/28 県委託事業等について検討・派遣報告 弁護士会館・Zoom
 - 9/16 合同勉強会 弁護士会館・Zoom
 - 9/30 県委託事業等について検討・派遣報告 弁護士会館・Zoom
 - 11/17 合同勉強会 弁護士会館・Zoom
 - 12/9 合同派遣勉強会 弁護士会館・Zoom
 - 1/26 契約市町との派遣促進について 弁護士会館・Zoom

(4) 2021 年度高齢者虐待対応力向上研修（兵庫県委託）

月	日	会場名		受講者数
9/1～12/14		オンデマンド開催		(講義) A研修 283 名
9	24	のじぎく会館	(講義・演習) B研修	30 名
9	30	兵庫県福祉センター	(自治体職員向け) D研修	48 名
10	1	じばさんびる	(講義・演習) C研修	50 名
10	27	じばさんびる	(講義・演習) B研修	53 名
11	16	のじぎく会館	(講義・演習) C研修	35 名
12	2	じばさんびる	(講義・演習) B研修	58 名
12	14	のじぎく会館	(講義・演習) C研修	22 名
合計				579 名

(5) 2020 年度障害者虐待対応力向上研修（兵庫県委託）

月	日	会場名	内容	受講者数
9/12～10/5		オンデマンド開催		(講義) A研修 207 名
9	14	のじぎく会館	(自治体職員向け) D研修	27 名
9	22	姫路労働会館	(基本演習) B研修	74 名
10	6	中央労働センター	(応用演習) C研修	64 名
10/10～11/8		オンデマンド開催		(講義) A研修 145 名
10	20	姫路労働会館	(基本演習) B研修	83 名
11	9	のじぎく会館	(応用演習) C研修	68 名
11/14～12/7		オンデマンド開催		(講義) A研修 103 名
11	24	のじぎく会館	(基本演習) B研修	73 名
12	8	中央労働センター	(応用演習) C研修	67 名
合 計				456 人

(6) 認証研修高齢者虐待対応研修

7/4・8/8・8/28 兵庫県福祉センター 9/12 のじぎく会館

(7) 神戸市障害者虐待対応力向上研修（神戸市委託）

1月14日・27日 — 神戸市中央研修センター虐待対応現任職員

(8) 「高齢者・障害者のための弁護士 電話法律相談」（弁護士会主催）

毎月第1・3・5火・木曜日 相談員派遣

(9) 委員会内部研修会実施 4/10・5/29・30 高齢者虐待対応現任者標準研修の内容にて

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	12	16名	Zoom	県委託事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告等
8	8	15名	Zoom	県委託事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告等
10	17	16名	Zoom	県委託事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告等
12	19	14名	Zoom	来年度事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告等
2	20	15名	Zoom	来年度事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告等

他 運営委員会随時開会（定例委員会開催の前・11/7・3/6）

委員会終了後、研修資料作成の協議、ワーキングチーム派遣に向けた勉強会等を開催している。
派遣の振り返りを随時実施

1 総括

(1) 2021年9月30日に緊急事態宣言、2022年3月21日にまん延防止等重点措置が解除されたが、被後見人等ご本人が、施設や病院に入所・入院している場合は、多くのところで未だ面会禁止や面会制限が行われている。ぱあとなあでは、被後見人等ご本人の生活状況の把握や身上配慮のために月1回訪問し、ご本人と面談をすることを基本的な実務として示されているが、このような状況下においては、ご本人の居所の対応は別り、必要に応じた対応をお願いしている。その様な中、成年後見制度を必要とされる事案は途切れることも無く、家庭裁判所からぱあとなあ兵庫への後見人等候補者推薦依頼は、2021年度月平均21件にもなっている。

また、今年度は、全体会もオンラインでは有ったが開催出来、各エリアの名簿登録者研修も対面研修とzoomミーティングによるオンラインでの開催を行った。そして、成年後見人材育成研修も今年度41名の会員が受講された。昨年に引き続き未成年後見人養成研修もオンライン研修ではあったが、兵庫県会員8名含め40名の参加を頂いた。

昨年度会員数も481名となり、各エリアにおいての班長・エリア長の支援体制もより必要となっている。各エリアでの研修会により、後見活動上の専門知識や事例検討などを通しての情報交換をする機会を設けることによって、運営委員・会員仲間との顔の見える関係作りが出来、受任者が安心して後見活動が出来る様に取り組んできた。今後も一人でも多くの方に受任して頂き、成年後見制度が必要な方々に専門職団体として応えて行ける様に活動していく。

(2) 政府において、2017年3月24日、成年後見制度の利用の促進に関する法律に基づく成年後見制度利用促進基本計画が閣議決定され、これにより市町村は基本計画を懸案事項として、市町村における成年後見制度利用の促進に関する施策についての基本計画を2021年度までに定めることとされている。その準備段階より三専門職団体が参画することが要請され、兵庫県の三専門職団体としても合同して積極的にこれに参画してきた。県内の各市町において、未だ計画の進んでいないところも多く見られ兵庫県地域福祉課、家庭裁判所、兵庫県社会福祉協議会などと協力し積極的に対応している。

(3) 2021年度においても、成年後見人材育成研修・名簿登録研修、実務研修を開催すると共に、未成年後見人養成研修の開催をした。

2 事業報告

1 研修会・会議

(1) 家裁支部エリア別登録者研修会

ぱあとなあ活動の中心であるエリア別研修会を神戸、尼崎、伊丹、姫路、明石・加古川、社、柏原の家裁支部エリア毎に下記のように研修会を開催した。

月	日	内 容	参加人数
4	24	姫路・龍野・豊岡・社エリア合同（兵庫県立武道館） 「終了事務の確認と注意すること」「現行書式の確認」 「コロナ禍における身上保護どうしてますか」「参加者からの相談」	24
6	10	全体会（Zoomミーティング） 「成年後見制度の現状と社会福祉士後見人に期待すること」 「権利擁護と社会福祉士後見人の活動とは」	144
5	12	第1回リーガル&ぱあとなあ合同勉強会 明石・加古川エリア（Zoom） 「令和3年度介護保険報酬改定と介護施設等サービスとの連携について」	21
7	3	明石・加古川エリア（Zoomミーティング） 「事務の流れを再確認！こんなときどうするの！？ （事案応募～定期報告までの基本事項と対応のポイント）」	24
8	19	姫路・龍野・豊岡・社エリア合同（Zoomミーティング） 「皆様の活動状況と今後の受任可能な件数について」「被後見人等のコロナワクチン接種について」「後見活動をする上での困りごとや悩みや質問等」	20

9	11	明石・加古川エリア (Zoomミーティング)	23
		「事務の流れを再確認！こんなときどうするの！？(定期報告+αの基本事項と対応のポイント)」	
9	25	尼崎エリア (Zoomミーティング)	34
		「後見活動なんでも相談会」	
10	2	姫路・龍野・豊岡・社エリア合同 (Zoomミーティング)	21
		「収支予定表の事例検討」「事前にいただいているご意見、ご相談などについて」「困っていること、相談したいこと」	
11	8	伊丹エリア (東りいたみホール + Zoomミーティング)	39
		「伊丹エリアでの成年後見制度利用状況と社会福祉士に望むこと」「死後後見事務に関する質疑応答」「利用促進事業に関する取り組みについて」「中核機関への準備状況について」	
11	10	第2回リーガル&ぱあとなあ合同勉強会 明石・加古川エリア (Zoom)	24
11	16	神戸エリア (Zoomミーティング)	34
		「本人死亡後の事務処理の流れについて」「死後事務の新しい流れについて」	
12	4	尼崎エリア (西宮市民会館)	19
		「西宮市高齢者・障害者権利擁護支援センターとの連携について」	
12	11	柏原エリア (丹波市柏原住民センター)	8
		「就任直後、生活保護受給終了！！」	
12	11	名簿登録研修 成年後見基本実務研修 (兵庫県福祉センター)	36
1	8	姫路・龍野・豊岡・社エリア合同 (Zoomミーティング)	36
		事務報告、交流会 等	
1	16	伊丹エリア (Zoomミーティング)	17
		「ぱあとなあ名簿登録者報告書の記載説明」	
1	22	伊丹エリア (YouTube配信)	18
		「ぱあとなあ名簿登録者報告書の記載説明」	
1	29	未成年後見人追記登録者及び養成研修修了者交流会 (Zoomミーティング)	20
		「未成年後見申立てと子どもたちの現状」「社会福祉士の未成年後見人に期待されている役割とは」	
2	9	第3回リーガル&ぱあとなあ合同勉強会 明石・加古川エリア (Zoom)	20
		「司法書士の視点から後見業務を考える」	
3	12	尼崎エリア (Zoomミーティング)	32
		「後見活動 事例検討会・相談会」「情報交換と交流会」	
3	13	柏原エリア (げんき・げんきハウス)	10
		「成年後見人に必要な年金知識について」	

(2) 全体会を6月10日(土)にオンラインにて開催。

講師に神戸家庭裁判所 清水真子主任書記官を招き、講演会を開催。144名参加。

演題「成年後見制度の現状と社会福祉士後見人に期待すること」

(3) 名簿登録者の全体会を12月11日(土)集合研修にて開催。

36人受講。うち30人名簿登録。

(4) 成年後見人材育成研修(認証研修)を開催。

41人受講。39人修了。

2 後見活動報告書の提出と名簿登録

- (1) 今年度の期限内未提出者は3名であったが運営委員が提出を促し、受任中の全会員に提出していただいた。
- (2) ぱあとなあ兵庫名簿登録者は481名。未成年後見追記登録21名。

3 家裁への後見人等の推薦

今年度は家裁からの推薦依頼が順調に推移し、220件を推薦した。明石市をはじめとする自治体や地域包括支援センターからの依頼は、39件。

奇数月に神戸家裁本庁との定例懇談会年間4回に委員長、副委員長等5名が出席。

4 他団体との連携

(1) 家裁との連携

(2) リーガルサポートとの連携

エリア別研修会でもリーガルとの合同勉強会や講師とする取組みを各地で実施した。

(3) 講師・委員の派遣

自治体や社協等からの要請により、講師や委員の派遣を行なった。

(4) ぱあとなあ近畿ブロック会議

ぱあとなあ近畿ブロック会議が10月16日（土）にZoomミーティングにて開催され委員長、副委員長が参加した。

5 その他

- (1) 権利擁護に関する相談が事務局に寄せられ、運営委員が対応をした。

3 委員会開催日

毎月第4土曜日（10時～12時）をZoomミーティングによりオンラインで運営委員会を開催した。すべてZoomによるオンライン開催

4月24日	5月22日	6月19日	7月1日	9月25日	10月16日	11月27日	1月8日
31名	32名	23名	33名	33名	26名	34名	30名

1月29日	2月26日	3月26日
34名	31名	26名

1 総括

2021 年度は、昨年度に引き続きコロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した委員会活動となった。緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の発令を受け、地域包括支援センター職員の活動にも制限が加わり、本来の機能と役割を果たすことが困難な状況が続いた年度であった。

当委員会では、こうした状況下においても地域包括支援センター職員への継続的な支援の必要性を認識し、コロナ禍という環境下においてもセンター職員のチーム力向上を目指して、年間を通じて研修を実施した。

地域包括支援センターに配属された新任職員を対象とした、委員会が主催する「初任者研修」のほか、兵庫県の委託事業である「困難事例対応力向上研修」では、対応困難事例を通じたチームアプローチの強化や職員の困難事例への対応力向上を基礎とした研修に加え、予めから課題としていた管理者向け研修を新たに開発し、全てリモートで開催した。

委員会活動を支える委員は、4月から対面と Zoom を活用した定例会議を通じて意見交換を図り、お互いを支え合い高め合ってきた。委員会メンバーとは LINE を活用した連絡網を通じて情報共有し、研修等の打合せは Zoom を使って実施した。当委員会活動に関心のある会員が 4 名見学参加されている。

残念な点は、これまで活動を行ってきた三職種団体連絡会の活動が実質終了する方向で進んでいる点である。次年度には、その方向性を確定させていくことになっている。

2 事業報告

- (1) 地域包括支援センター支援委員会定例会（4月以降3ヶ月に1回ハイブリッドで開催）
- (2) 三職種団体との定期的な連絡会（ハイブリッドでの開催1回）
- (3) 研修の企画・実施
地域包括支援センター初任者研修 令和3年10月14日
困難事例対応力向上研修 令和3年7月22日～令和4年3月15日 計8回
- (4) 各ブロックとの合同情報交換会の開催
今年度は合同情報交換会を開催できず。
- (5) その他、地域包括支援センターの社会福祉士に対するバックアップ機能の強化
当該委員会への見学を随時受入れし、委員会メンバーへの参画もしていただいた。

3 委員会開催日

- (1) 定例会他

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	11	9名	三宮勤労会館 (ハイブリッド)	定例会
5	13	5名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」共通研修打合せ
6	29	9名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」共通研修打合せ
7	11	13名	兵庫県福祉センター (ハイブリッド)	定例会
8	12	8名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」演習①打合せ
8	27	5名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」演習②打合せ
9	2	8名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」演習①打合せ
9	28	7名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」演習②打合せ
10	4	8名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」演習①打合せ

月	日	参加人数	場 所	内 容
10	10	12名	兵庫県福祉センター (ハイブリッド)	定例会
11	11	6名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」演習②打合せ
11	19	5名	兵庫県福祉センター (ハイブリッド)	三職種団体連絡会
1	6	6名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」 管理者向け研修打合せ
1	9	12名	兵庫県福祉センター (ハイブリッド)	定例会
1	12	6名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」 管理者向け研修打合せ
2	14	9名	事務局 (ハイブリッド)	「困難事例対応力向上研修」 管理者向け研修打合せ

(2) 研修他

月	日	参加人数	スタッフ	開催方法	内 容
10	14	37名	5名	Zoom	地域包括支援センター 初任者研修
7	22	37名	8名	Zoom	困難事例対応力向上研修 共通研修 A 日程
8	24	59名	10名	Zoom	困難事例対応力向上研修 共通研修 B 日程
10	21	61名	6名	Zoom	困難事例対応力向上研修 演習①-A 日程
11	18	29名	6名	Zoom	困難事例対応力向上研修 演習①-B 日程
12	17	46名	6名	Zoom	困難事例対応力向上研修 演習②-A 日程
1	27	14名	5名	Zoom	困難事例対応力向上研修 演習②-B 日程
2	24	16名	4名	Zoom	困難事例対応力向上研修 管理者向け-A 日程
3	15	31名	4名	Zoom	困難事例対応力向上研修 管理者向け-B 日程

* 困難事例対応力向上研修参加者 実人員 215名 延人員 293名 (資料代入金者 延310名)

1 総括

2021 年度も新型コロナウイルス感染予防として緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され、いろいろと制約があるなかではあったが、委員会活動はオンラインで毎月定期開催できた。さらに 4 回連続講座であるスクールソーシャルワーク研修をオンラインで、そして認証研修であるスクールソーシャルワーカー養成研修はハイブリッド式で開催し、昨年度に引き続きコロナ禍でも学びの機会を提供できた。また、必要な感染対策をとりつつ児童家庭支援センターとの交流学习会など立ち止まらず委員会活動を継続できたことは成果である。また、このとり通信が発行される度、委員会見学の問い合わせがあり、あらたにこども家庭支援委員会の委員として共に活動できる仲間が増えた。委員会内でも活発に交流を図っていききたいと思うように集合できないところがもどかしく今後の課題と感じている。

こども家庭支援の分野は本人が抱える要因と置かれた環境による背景要因が複合的に複雑に絡み困難な状況となっていることも多い。昨今の社会情勢やコロナ禍の影響等ますますこどもや家庭への支援が必要とされており、そこでのソーシャルワークはよりジェネラルな視点とスペシフィックな専門性が求められる。こども家庭支援委員会では、このような専門性を支える研修企画運営や委員から提案されるテーマについての活動を充実発展させつつ、委員一人ひとりの得意分野と強みと熱い想いを活かし、こども・家庭支援や社会に貢献できる活動をさらに展開しすすめていきたい。

2 事業報告

- (1) 委員会定例会 毎月開催 計 12 回 (下記「委員会開催日」参照)
- (2) 研修実施 認証研修、スクールソーシャルワーク研修 (下記参照)
- (3) 神戸市児童家庭支援センターとの交流学习会 (委員会内有志による勉強会)
10 月 16 日 (土) 講師：神戸市児童家庭支援センター長 2 名 参加者 13 名
- (4) ふうのひろば (神戸市こども若者ケアラー室によるヤングケアラーの居場所事業) 派遣依頼対応
- (5) 丹波市いじめ問題専門委員推薦依頼対応 (委員派遣)
- (6) 西宮市いじめ防止等対策委員会推薦依頼対応 (委員派遣)
- (7) 未成年後見制度に関するプロジェクトチームの活動協力
- (8) スクールソーシャルワーカー募集(求人)に関する周知

『スクールソーシャルワーク研修』 オンラインにて実施

月	日	受講申込者	研修内容
5	23	43名 講師： 馬場幸子氏 (関西学院大学)	第1回 SSW とは？SSW の役割、動き
8	22		第2回 根拠のある実践のための包括的アセスメント
11	14		第3回 効果的なケース会議の進め方 (問題解決型ケース会議)
2	27		第4回 地域との連携 (要対協・協議会の活用のしかた)

『スクールソーシャルワーカー養成研修 (認証研修)』 ハイブリッド式 (会場参加+オンライン参加)

月	日	時間	受講申込者	内容
7	24	9:40~17:00	合計 44 名	講義、演習
7	25	9:40~17:00	合計 44 名	講義、演習

3 委員会開催日

月	日	参加者	内容
4	2	13名	研修企画、運営打ち合わせ、近況報告
5	8	11名	研修企画、打ち合わせ、
6	5	12名	研修企画、研修振り返り、運営打ち合わせ
7	3	6名	研修企画、打ち合わせ
8	7	9名	研修企画、運営打ち合わせ
9	11	9名	研修企画、振り返り、打ち合わせ、
10	3	7名	研修企画、打ち合わせ、来年度事業について検討
11	7	10名	研修企画、打ち合わせ、事業対応相談
12	11	8名	研修企画、振り返り、運営打ち合わせ
1	22	7名	研修企画、打ち合わせ、来年度事業について検討
2	20	12名	研修企画、運営打ち合わせ、事業対応相談
3	6	12名	研修企画、振り返り、来年度事業について検討

1 総括

2021 年度は、2020 年度同様に社会福祉士実習指導者講習会を除き、委員会活動、その他事業すべてにおいて Zoom を使用し、オンラインでの開催とした。

社会福祉士実習教育支援者研修は、受講者が業務上で参加がしやすいよう平日火曜日の午後で開催とし、兵庫県下の 3 社会福祉協議会の方より実践報告を頂き 27 名の参加があった。近畿ブロック和歌山大会はオンラインでの開催の為、プレ企画は実施出来なかった。

優秀実習先表彰だが、2020 年 12 月開催の養成校連絡会にて養成校より、コロナ下で大変な状況で実習受け入れをして下さった実習先と実習指導者を表彰するよりも、感謝状を贈呈する方が適切ではとの意見があったため、今年度は実習受け入れ施設・機関すべてに感謝状を郵送した。社養成校連絡会は 12 月に開催し、19 名の参加がありコロナ禍での実習の実施などについて情報交換を行った。本年度は委員会の開催は全て Zoom を使用したため委員交通費の削減となった。

「社会福祉士実習指導者講習会」は毎年 1 回開催を継続しており、今年度は 65 人が修了。定員は昨年同様に 60 名とし、入室前の検温、手指消毒、健康チェック表の記入、定期的な換気、フェイスシールドの着用といった感染対策を施したうえで開催した。

2 事業報告

『社会福祉士実習指導者講習会』

月	日	参加者	場所	内容
11	27	65 名	兵庫県福祉センター	実習指導概論、実習マネジメント論、実習プログラミング論
11	28			実習指導実践内容報告、実習スーパービジョン論

『学生交流会』

月	日	参加者	内容
10	14	2 名	(Zoom を用いた) 養成校教員による現場の社会福祉士へのインタビュー
10	21	3 名	
10	28	3 名	

『近畿ブロック実習担当者会議』

月	日	参加者	内容
4	17	1 名	第 1 回 実習指導者講習会について
6	5	1 名	第 2 回 実習指導者講習会について 近畿ブロック大会について
8	21	1 名	第 3 回 実習指導者講習会について 新カリキュラムについて
10	16	1 名	第 4 回 実習指導者講習会について 新カリキュラムに関して情報共有
2	19	1 名	第 5 回 実習指導者講習会について

『委員会開催』

定例委員会：原則第 3 木曜日

月	日	参加者	内容
6	10	9 名	第 116 回委員会 はじめのいっぽについて 実習指導者支援研修について
10	21	9 名	第 117 回委員会 実習指導者講習会について 養成校連絡会について 2022 年度事業計画について

『養成校連絡会』

月	日	参加者	内容
12	16	19 名	① 第 18 回 2021 年度の実習状況について情報交換

1 総括

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の目的で、研修も委員会もすべてオンラインでの活動となった。顔を合わせての活動が制限されたことで、当委員会が力を入れている横のつながりを作ることに、大きな支障となってしまった。

そんな中で、2度目のオンライン開催となった実践報告会では、県内だけでなく関東や九州の仲間が参加してくださるなど、集合研修では難しい広がりも見出すことができた。県内外で活躍されている独立型社会福祉士からの魅力的な実践報告を受けて、現在独立されている方だけでなく、今後独立を目指している方へのよい刺激となった。

毎年開催している倫理学習会も今年は福祉セミナーの分科会として開催し、約20名の参加者があった。

年4回配信しているメールマガジンも内容をブラッシュアップして、独立型社会福祉士の活動報告やコラム、図書書評だけでなく、心理学や確定申告などの幅広い情報を登録会員へ提供することができた。

2 事業報告

月	日	参加者数	場 所	内 容
7	17	23名	Zoom	実践報告会

月	日	登録者数		内 容
5	7	88名	dommML	メルマガ「夢ふうせん」vol.33
9	1	88名	dommML	メルマガ「夢ふうせん」vol.34
2	13	88名	dommML	メルマガ「夢ふうせん」vol.35

3 委員会開催日

月	日	参加者数	場 所	内 容
4	20	9名	Zoom	年間事業計画について、実践報告会・メールマガジン発行について
7	6	7名	Zoom	実践報告会 内容決定、倫理学習会の内容、メールマガジンについて
9	7	6名	Zoom	実践報告会 振り返り、倫理学習会 内容決定、情報共有
10	15	8名	Zoom	倫理学習会 最終確認、メルマガ発行について
1	12	9名	Zoom	2022年度実践報告会について
2	22	9名	Zoom	2022年度実践報告会について、令和3年度事業報告の校正、名簿作成

1 総括

委員会では新たな委員を得て、定例委員会で情報交換や意見交換を行うことができた。障害児・者、福祉の様々なところで活躍する委員によって情報交換を行うことにより、障害・高齢に関わらず、複合的なニーズを持つ人たちへのソーシャルワークを学ぶことができた。しかし、昨年度からのコロナ禍のため集合して委員会が開催できず、一部オンラインでの委員会となった。

今後も様々な分野で活躍する委員によって障害児・者、高齢に関わらず、現状・課題などについて情報交換、意見交換、又、学習会を通して障害福祉の動向や課題を知り、実践的な知識や技術を学んでいきたい。

2 事業報告

委員会は2か月に1回のペースで、第2日曜日に行ってきた。

日程	人数	場所	内容
4月11日	6名	Zoomのみ	委員会
7月11日	6名(内1名Zoom)	東部在宅支援センター	委員会
9月12日	7名(内2名Zoom)		委員会
10月10日	9名	Zoomのみ	研修打ち合わせ
11月14日	9名(内2名Zoom)	東部在宅支援センター	委員会
1月9日	9名(内3名Zoom)	東部在宅支援センター	委員会
3月21日	9名	東部在宅支援センター	委員会

- 11月14日 拡大学習会 発達障害について「こどもの自立に向けた支援について」
講師 泉 和夫先生 参加者 19名
- 3月21日 拡大学習会 発達障害について
講師 西本 寛先生 参加者 20名

1 総括

コロナ禍の影響により、対面型研修の開催は見合わせたが、学びの機会を提供するためオンライン形式により委員会及び研修会を開催することにした。

奇数月に開催している委員会では、司法機関や生活困窮者支援の現場で働く委員に、発表者となってもらい、ミニ学習会を開催し実践的な学びを深めている。「フォレンジック・ソーシャルワーク研修」では、入口支援から社会復帰に至る状況や生活再建を支える社会福祉士の役割を検討する機会となっている。

来年度も引き続き、入口支援に重点を置き、兵庫県弁護士会と PT 検討会を実施し、寄り添い型の支援が実施できないか模索していきたいと考えている。

2 事業報告

1月16(日) フォレンジック・ソーシャルワーク研修開催。Zoom形式にて実施タイトル「福祉と司法のかけはし」講師 田中 洋子氏。(広島女学院大学非常勤講師)

3 委員会開催日

奇数月 第3金曜日に委員会を開催。

月	日	参加人数	場 所
5	21	23名	Zoom
7	16	19名	Zoom
9	17	15名	Zoom
11	19	16名	Zoom
1	26	16名	Zoom
3	18	17名	Zoom

1 総括

総務会内に設置された退院支援アドバイザーを支援する「退院支援チーム」を2014年度より地域移行支援委員会と名称を改め委員会活動となった。

新型コロナの影響から、オンラインを活用して、委員会活動および拡大学習会を開催した。

また、精神科医療の現場で起こった入院患者に対する虐待事案について、兵庫県精神保健福祉士協会とともに合同学習会「なぜ、精神科医療現場等で虐待が起こるのか～神出病院の虐待事案から考える～」を開催し、原因の究明と職能団体としての取組みのあり方を検討した。この問題は引き続き、関係6団体において協議を行っている。

2 事業報告

- (1) 神戸市および伊丹市等に勤務する退院支援員（社会福祉士）に対する助言、支援
- (2) 地域移行支援委員会設置による退院支援に関する専門研修の企画、調査研究活動
- (3) 退院支援員（社会福祉士）に対する助言、支援
- (4) 地域移行支援委員会の開催（5月、7月、9月、1月、3月の隔月 5回開催）
退院支援員の活動報告及び各委員からの情報交換を行った。
- (5) 精神保健福祉士協会との合同学習会の実施
5月30日（土）13時30分～17時（オンライン）
内容：なぜ、精神科医療現場等で虐待が起こるのか～神出病院の虐待事案から考える～
参加者：39名
- (6) 地域移行に関する専門研修（拡大学習会）の実施
11月25日（木）19時～20時30分（オンライン）
内容：障害者権利条約と障害者の基本的人権について～精神科病院における虐待を考える～
講師：福島 健太（兵庫県弁護士会）
参加者：32人
- (7) 精神科病院等における虐待問題を考える6団体協議への参加
精神保健福祉士協会、医療ソーシャルワーク協会、弁護士会、家族会、精神医療人権センターとの合同会議へ参加し、虐待問題について定期的に協議を行っている。
（7月8日、9月8日、10月26日、1月26日）

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	25	8名	Zoom	情報交換、合同学習会の準備
7	29	10名	ハイブリッド式	情報交換、拡大学習会の検討
9	30	8名	ハイブリッド式	情報交換、拡大学習会の準備
11	25	32名	Zoom	拡大学習会
1	27	5名	ハイブリッド式	情報交換、拡大学習会の検討
3	24	9名	ハイブリッド式	情報交換、拡大学習会の検討

1 総括

2015 年度に施行された生活困窮者自立支援法は、支援の対象者を限定せず、経済的だけでなく、社会的に孤立している人に対して、生活上の課題が複雑化、深刻化する前に、どのような解決方法があるのかをいわゆる「伴走型支援」により一緒に考え、自立促進を図ることを目指している。

新型コロナ禍にあつて、日常生活を送るうえで、現代社会の抱える深刻な生活課題が明らかになった。

国は、従来からの年齢別、困りごと別の従来からの制度サービスでは解決できない地域住民の複合・複雑化した支援ニーズに対応する「包括的支援体制」を構築するため、身近な自治体で①「断らない相談支援」、②参加支援、③地域やコミュニティにおけるケア・支え合う関係性の育成支援を一体的に実施するため、社会福祉法改正を行い、各市町村は具体的な体制づくりの準備を進めている。

当委員会は発足7年目を迎えたが、生活困窮者自立相談支援機関の相談援助業務の相談員はもちろん、生活保護法及びホームレス支援特別措置法等の支援に基づく相談援助や、地域生活支援、権利擁護、就労支援に携わる従事する援助職の参加を呼び掛け、定例会での相互の情報交換や研修等を通じて政策動向を踏まえて、地域生活課題の解決に向けて支援していきたい。

また、当委員会が中心となり、認証研修「滞日外国人ソーシャルワーク研修」をオンライン方式で開催した。オンライン方式で開催したことで、講師も受講者も遠方から参加が可能となったことから、従前より幅広い内容で、受講者も増加した。研修自体は隔年開催としたが、今後もオンライン形式で継続していきたい。

2 事業報告

- (1) 定例委員会での情報提供や現場からの課題の報告
- (2) 旧ホームレス支援委員会からの継続事業への協力
- (3) 認証研修「滞日外国人ソーシャルワーク研修」の運営
- (4) 地区ブロック活動との連携・阪神ブロックへの情報提供

(1) ホームレス支援

月	日	参加人数	場 所	内 容
7	31	5 名	武庫川河川敷、武庫大橋の北東（尼崎側）付近	兵庫県弁護士会の実施する「生活再建相談会」に協力 武庫川河川敷でホームレスに対する相談援助を実施
11	13	5 名		

(2) 認証研修

「滞日外国人ソーシャルワーク研修」（12月11日（土）、12日（日）開催）Zoomによるオンライン研修

受講者 26 人 うち修了レポート提出者 22 名

当委員会委員が分科会・運営進行のファシリテーターを務める。

*修了者とは「認定社会福祉士」資格取得のためのレポートを提出し、合格された方のことです。

(3) 研修会開催

*今年度は諸事情により開催せず、次年度に延期した。

(4) 地区ブロック活動との連携

・阪神ブロック役員会に出席し、情報交換や進捗報告等を行う。

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	4	10名	Zoom	1 近況報告 2 協議事項 今年度計画について
6	6	10名	Zoom	1 近居報告 2 ミニ研修会 ビッグイシュー基金 高野さん 販売者 入沢さん 3 今年度の活動について
8	6	12名	Zoom	1 協議事項 (1) 主催研修会について (2) 認証研修について
10	3	11名	兵庫県福祉センター および Zoom	(1) 主催研修会について (2) 認証研修について
12	5	12名	兵庫県福祉センター	(1) 主催研修会について (2) 2022年度事業計画・予算について
2	6	7名	Zoom	○各委員からそれぞれの業務等を通じて「新型コロナ禍の影響と生活困窮について」を報告 ・生活福祉資金貸付の件数の増、生活保護申請に至らぬケースの増、介護保険利用、高齢者の虐待相談、児童虐待相談の増、コロナ禍での福祉事業の継続のむつかしさなど ○次年度予定について

1 総括

2018 年度から実施している認証研修「災害支援活動者養成研修」は新型コロナの影響により、2020 年度以降中止となるとともに、近畿ブロック大会のプレ企画も開催されていない。

2021 年度は、7 月に静岡県熱海市における土石流災害や 8 月には集中豪雨による甚大な水害、3 月には福島で震度 6 強の地震があるなど、毎年のように災害が発生している。

今後、情報収集・発信の仕方、広域での協力体制の確保など教訓を今後の取り組みに生かしたい。

県からの委託事業については、2018 年度より「防災と福祉の連携促進事業」が全国セミナーとして開催され、2021 年度も継続された。

本委員会としては、災害支援体制の構築を図るため、災害支援活動者登録制度（発災時対応、研修運営）を立ち上げるとともに、日本社会福祉士会が策定した「災害支援ガイドライン」に基づき、「災害支援マニュアル」および、兵庫県版 DWAT への参画に向けて検討を行った。

2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
10	24	2 名	Zoom	日本社会福祉士会全国担当者会議への参加
2	18	15 名	同上	防災と福祉との連携促進シンポジウムへの参加
2	27	2 名	同上	日本社会福祉士会全国担当者会議への参加

3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	6	18 名	Zoom	災害支援マニュアル等の検討
5	22	4 名	福祉センター	(作業部会) 災害支援活動者登録制度の検討
6	2	22 名	Zoom	災害支援マニュアル・登録制度の運用
7	21	11 名	Zoom	静岡県熱海市における土石流災害(情報共有)
7	31	6 名	Zoom	(作業部会) 災害支援マニュアル等の検討
8	3	46 名	Zoom	(拡大学習会)「福祉専門職による災害支援～コロナ禍での災害時の心構えと行動を学ぶ～」
9	4	6 名	ハイブリッド式	(作業部会) 災害支援マニュアル等の検討
10	5	14 名	同上	災害支援活動者養成研修への協力 災害支援マニュアル等の検討
12	4	5 名	ハイブリッド式	(作業部会) 災害支援マニュアル等の検討
12	7	19 名	Zoom	(学習会)「大阪 DWAT の取組みを学ぶ」
1	29	5 名	ハイブリッド式	(作業部会) 災害支援マニュアル等の検討
2	2	11 名	Zoom	災害支援マニュアル等の検討

1 総括

広く県民の方が利用できるよう、利用対象の拡大を図るとともに、2013年4月より愛称「福祉相談センター ここねっと兵庫」として事務局職員（相談員・ばあとなあ業務兼務）を配置して行った。

相談件数は少ないため、今後さらに福祉相談センターの周知を図る必要がある。また、総合的な相談が増加し、構成委員会との連携を強化するとともに、包括的な取り組みができるセンター機能の向上が必要となってきた。

2 事業報告

- (1) 毎日の相談受付と相談業務（構成委員会と連携を図りながら相談員による回答を行う）

構成委員会メンバー

- ①ばあとなあ兵庫
- ②相談委員会
- ③ソーシャルワーク研究委員会
- ④こども家庭支援委員会
- ⑤高齢者・障害者虐待対応委員会
- ⑥地域包括支援センター支援委員会
- ⑦生活困窮者支援委員会
- ⑧障がい福祉委員会
- ⑨更生支援委員会
- ⑩研修委員会

- (2) 「ここねっと兵庫・ネットワーク会議」の開催（適宜）

- (3) 相談件数 21件

1 総括

当センターは、新生涯研修制度における基礎研修の企画・運営とともに、研修を開催する各委員会や地区ブロックによる研修の内容、日程の調整を行うことを目的として2013年度から立ち上がった。

2 事業報告

- (1) 基礎研修講師調整会議の開催 3月5日
- (2) スーパービジョン研修受講生の推薦 7名 (SV登録者 27名)
- (3) スーパービジョンの開催 28名受講
- (4) 基礎研修の開催
 - 基礎研修Ⅰ 72名修了 (88名申込)
 - 基礎研修Ⅱ 71名修了 (86名申込)
 - 基礎研修Ⅲ 73名修了 (74名申込)

1 総括

2021年度はコロナウイルス感染拡大の中、実施方法について担当者会議にて協議を重ねた。協議においては、SNSなどの活用による開催を検討し、年度内の実施を目指したが、調整が間に合わず年度内の実施を断念し、2022年度の実施に向けた準備に取り掛かることとなった。

2 事業報告

介護福祉士会、介護支援専門員協会、精神福祉士協会、医療ソーシャルワーカー協会及び本会の担当者による協議を継続的に実施し、効果的なソーシャルワーカーデーの実施を検討した。

3 会議開催日

月	日	場 所	内 容
5	6	Zoom	コロナ禍でのソーシャルワーカーデー実施方法について
6	11	Zoom	コロナ禍でのソーシャルワーカーデー実施方法について
11	30	Zoom	コロナ禍でのソーシャルワーカーデー実施方法について
1	8	本多聞ケアホーム	2022年度実施計画案、ホームページ、YouTubeの活用について検討
2	2	Zoom	2022年度実施に向け、座談会、インタビュー動画などについて検討
3	4	Zoom	2022年SWDのコンテンツである座談会登壇者による、打ち合わせ会。座談会のテーマ等について検討
3	24	Zoom	2022年度SWD実施に向けた準備。PRチラシ、各コンテンツの内容について検討

1 総括

全国的に社会福祉士資格取得者の組織化率は年々低下する中、本会は第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5カ年発展計画」の推進に取り組み、入会キャンペーンの再開やはじめのいっぽの開催、地区ブロックにおける集い場を推進するなど、組織力向上に取り組んだ。

この結果、2021年度の会員数は減少傾向から増加傾向に転じ、1,750人から1,775名に増加した。組織率は15%台を維持しているものの、全国平均の18%台には及んでおらず、引き続き、組織力向上の取り組みが必要である。

組織力向上戦略会議（以下「戦略会議」という）ではオンライン会議（Zoom）において、入会促進及び退会防止策等について具体的な方策を検討するとともに、11月には、SWD5団体による合同研修「ヤングケアラーへの支援」を開催した。また、2023年7月には、本会創設30周年を迎えるため、編纂部会を設置し、30周年記念事業の準備を進めた。また、こどもの権利擁護研究プロジェクトチーム（こどもPT）において、未成年後見のあり方について引き続き検討を行った。

2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	26	40名	Zoom	はじめのいっぽ♪
11	13	150名	Zoom	SWD5団体合同研修「ヤングケアラーへの支援とは」

3 会議開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	1	6名	Zoom	第2期中期計画最終案の検討、新入会員イベントの検討
5	6	7名	Zoom	第2期中期計画最終案の検討、新入会員イベント、福祉テラスの検討
5	11	5名	Zoom	30周年記念事業検討（記念誌検討）
6	3	6名	Zoom	入会促進の検討（後期キャンペーン、会費割引、福祉テラスの検討）
7	1	5名	Zoom	入会促進の検討（後期キャンペーン、会費割引、福祉テラスの検討）
7	13	5名	Zoom	30周年記念事業検討（記念誌検討）
8	5	5名	Zoom	入会促進の検討（後期キャンペーン、会費割引、福祉テラスの検討）
9	2	6名	Zoom	入会促進の検討（会費割引、福祉テラス等の検討）
9	14	5名	Zoom	30周年記念事業検討（記念誌検討）
10	7	6名	Zoom	2022年度予算の検討、入会促進の検討（福祉テラス等の検討）
11	4	5名	Zoom	2022年度予算の検討、入会促進の検討（福祉テラス等の検討）
11	16	5名	Zoom	30周年記念事業検討（記念誌検討）
12	2	4名	Zoom	2022年度予算の検討、入会促進の検討（福祉テラス等の検討）
1	11	4名	Zoom	30周年記念事業検討（記念誌検討・シンポジウム打合せ）
2	3	7名	Zoom	2022年度予算の検討、入会促進の検討（福祉テラス等の検討）
3	3	5名	Zoom	2022年度予算の検討、入会促進の検討（福祉テラス等の検討）
3	8	6名	Zoom	30周年記念事業検討（シンポジウム収録）

その他兵庫県からの受託事業

住宅確保要配慮者居住支援事業

1 概要

この事業は、住宅確保要配慮者の住まい確保を含む居住支援を行っている団体の発掘及び育成を図ることを目的とした「平成 29 年度ひょうご居住支援団体発掘・育成支援事業」への応募に端を発する。その後、住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律（通称：新たな住宅セーフティネット法）に基づく、「居住支援法人」に 2018 年 5 月 31 日に兵庫県より指定された。当会が実施する主な居住支援業務は、円滑な入居の促進に関する援助（入居前支援）である。

2021 年度は、国の居住支援法人補助事業（期間：2021 年 4 月 1 日～2022 年 1 月 31 日）による補助金を受けつつ、1 年間継続して事業を実施した。

2 事業報告

(1) 平日の 10 時から 16 時まで電話相談窓口（専用電話番号あり）を本会事務局内に設置し、相談支援員を常時配置した。

- ・延べ相談対応件数：343 件、新規相談実人数：66 人
- ・直接支援による住替え：3 件（他、間接的支援での住替え：5 件）

相談者の属性は約 3 分の 1 が高齢者、約 3 分の 1 が精神障害者である。緊急連絡先のない孤立している方、生活保護受給者や生活困窮者の相談が多い。本人や親族からの相談の他、地域包括支援センターや病院など支援機関からの相談も多く、相談実人数は前年（32 人）より倍増している。地域は神戸・阪神間が多く、県内南部が大半を占めている。

(2) 研修会の出席：ひょうご住まいづくり協議会や神戸市居住支援協議会、他の居住支援法人主催の研修会や会議に出席し、他の居住支援法人や、社会福祉協議会、行政（生活保護課、介護保険課等）等の関係機関との交流を深め、情報交換を行うなどし、本会の活動内容の普及に努めた。居住支援活動においても、相談内容によっては他の居住支援法人と連携して支援を行っている。

障害者差別解消相談センター事業

1 概要

2016 年度より始まったこの事業は、障害者差別解消法第 14 条の規定により、障害者差別に関する紛争の防止や解決に必要な体制を整備するため、県障害福祉課内に「障害者差別解消相談センター」を設置し、県職員とともに専門職である社会福祉士と精神保健福祉士が、障害者等からの相談等に対応するものである。

2 事業報告

本会と兵庫県精神保健福祉士協会から、1 日 1 名の相談員を県に派遣した（平日 10～16 時）。

本会からは 15 名の会員が障害者等からの電話相談に対応するとともに、社会資源等の案内を行った。

新型コロナウイルス感染症対策ネットワーク（介護）整備事業

1 概要

新型コロナウイルス感染防止対策に係る連絡調整・相談等に対応する職員を配置する。

2 事業報告

本会事務局に 2 名職員を配置し対応を行った。

医療的ケア児等コーディネーター養成研修等事業

1 概要

医療技術の進歩等を背景としてNICU等に長期間入院した後、引き続き人工呼吸器や胃瘻等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障害児（医療的ケア児）が増加している。

この事業は、医療的ケア児が地域において必要な支援を受けることができるように、また、医療的ケア児等が地域で安心して暮らしていけるように、支援者養成研修ならびにコーディネーター養成研修を開催し、地域において医療的ケア児等に対する支援が適切に行える人材を養成することを目的としている。

2021年度の支援者養成研修は事前に講義内容を収録し、受講者が期間内であればいつでも視聴できるオンデマンドによる開催とし、コーディネーター養成研修は演習等がある関係からZoomミーティングを使用したライブ配信によるオンライン開催とした。2020年度に緊急事態宣言下のため開催が延期となったコーディネーター養成研修も同じくオンラインにより開催した。

オンライン開催に伴い、これまで様々な事情により受講ができなかった層に受講機会の保障ができたとともに、支援者養成研修はオンデマンド開催に事後課題を設定したため、繰り返し視聴し、受講者の学びの質の担保も一定なされことにより、2022年度についてもオンライン開催の予定である。

また、2021年度までのコーディネーター養成研修修了者を対象としたフォローアップ研修もZoomミーティングを使用してオンラインにて開催した。

2 事業報告

(1) 医療的ケア児等支援者養成研修

視聴期間	開催場所	修了者数	申込者数
10月1日（金）～ 10月15日（金）	Youtubeによるオンデマンド配信	250名	269名
「総論」「医療」「福祉」「連携」「ライフステージにおける支援」全5科目の講義をそれぞれ動画収録し、You tubeにアップロード（限定公開＝URLを知っている者以外は視聴できない設定）し受講生へ周知。視聴確認として事後課題を設定し、11月5日（金）までに提出した者を本研修の修了者として修了証を交付した。			

(2) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修

開催日	開催場所	修了者数	申込者数
令和3年（令和2年度延期分） 9月6日（月）、9月8日（水）、9月9日（木）	Zoom	41名	43名
令和3年 12月13日（月）、12月14日（火）、12月16日（木）		53名	55名
令和4年 1月17日（月）、1月19日（水）、1月20日（木）		50名	55名
講義「医療的ケア児等コーディネーターに求められる資質と役割」「本人・家族の思いの理解、アセスメント」「支援体制整備」等、演習「本人・家族の思いの理解、アセスメント」「連携支援」「計画作成」「支援体制整備」等のプログラムをZoomミーティングで実施。ライブ配信での本研修を受講中は、ビデオの開始（＝本人の受講している姿が画面に映る状態）にて、2.5日間の全てのプログラムを受講した者を本研修の修了者として修了証を交付した。また、Zoom初心者向けに研修開催日前にZoom練習会を複数回実施した。			

(3) 医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修

開催日	開催場所	受講者数	実施内容
令和4年 3月11日（金）	Zoom	52名	講義「医療的ケア児の医療体制を考える～地域医療からみた課題～」、医療的ケア児等コーディネーターの役割についての意見交換

防災と福祉の連携による個別支援計画作成促進事業

1 概要

近年、豪雨災害をはじめとする大規模災害が頻発し、一人で避難することが難しい高齢者や障害者といった「避難行動要支援者」に被害が集中している実態が明らかになってきた。具体的な避難行動につなげようと、兵庫県では平成 30（2018）年度から、当事者や行政、地域住民、福祉専門職が協力する「防災と福祉の連携による個別避難計画」の作成に取り組んでいる。令和 3（2021）年 5 月には改正災害対策基本法が施行され、個別避難計画の作成が市区町村の努力義務となり、その重要性が一層叫ばれるようになってきた。（事業名は「個別支援計画」だが、法改正で計画の名称が「個別避難計画」となった。）

本事業は、主に福祉専門職を対象とした「防災対応力向上研修」と、その研修を受講した福祉専門職が地域住民らとともに「個別避難計画」を作成する事業の二本立てとなっている。

防災対応力向上研修では、ケアマネジャーや相談支援専門員といった福祉専門職が災害と災害リスクを正しく理解し、避難行動要支援者に対する支援を行うための知識とスキルを身に付け、地域住民や行政職員らと協力して、避難のための個別避難計画を作成するための実践力の習得を目標とする。一方、個別避難計画を作成する事業は、当事者と地域住民、福祉専門職が協力して計画を作成し、避難訓練を実施することで、実効性のある計画の作成促進を目指している。

本会は実行委員会事務局として、研修の企画・運営や県内各市町の事業展開のサポート、交付金交付事務等を行った。また、兵庫県モデルが全国的に注目されていることから、他府県からも防災対応力向上研修実施の要請を受け、広島県（オンライン 3 回）、大阪府東大阪市（集合）で開催したほか、岡山県にも講師として出向いた。

2 事業報告

(1) 福祉専門職対象 防災対応力向上研修

2021 年 7 月 19 日～2021 年 12 月 19 日、県内 12 会場、オンライン 2 回の計 14 回開催。
受講者数 713 名（修了証発行者数、県外等を含めた実人数は 747 名）。
オンライン研修には、北海道や群馬県、島根県、宮崎県などの全国各地の行政職員や福祉専門職から申し込みがあった。

(2) 防災と福祉の連携促進シンポジウム

2022 年 2 月 18 日、事業の総括的なイベントとして、事業実行委員会と関西広域連合の共催でシンポジウムを開催し、YouTube でライブ配信した。
申込件数 624 件。近畿各地以外からは、広島県や岡山県、千葉県、東京都、静岡県、愛媛県、福岡県、福井県などからも申し込みがあった。
シンポジウムの模様は、兵庫県の動画サイト「ひょうごチャンネル」で配信中。
・前編 基調講演（約 90 分） <https://hyogo-ch.jp/video/3666/>
・後編 パネルディスカッション（約 90 分） <https://hyogo-ch.jp/video/3668/>

(3) 意識調査

研修を受講した福祉専門職と、兵庫県介護支援専門員協会のケアマネジャーを対象に、防災に対する意識や利用者に対するの取り組みについての調査を実施した。
回答数／受講後調査：477 名 介護支援専門員協会調査：74 名

(4) 市町担当者ヒアリング

2022 年 3 月 4 日～3 月 25 日、本事業の取り組みについて、県内 41 市町の担当者を対象に、Zoom を使ったヒアリングを実施した。

(5) 事業報告書

『防災と福祉の連携による個別支援計画作成促進事業報告書』作成（2022 年 6 月発行予定）

地区ブロック報告

神戸地区ブロック

1 総括

新型コロナウイルスによる継続的な影響を受け、集合することができず、総会は書面評決とし、オンラインでの交流会のみ同時に開催した。また、役員会と行事関係もオンラインで開催した。

1年延期された神戸ブロック担当の兵庫社会福祉セミナーは、2021年10月に福祉セミナー初のオンライン開催となった。役員をはじめとする関係各位のご協力のもと、オンライン開催であるがゆえに遠方から参加される方も含めて地域を問わず幅広く、100名以上の方々にご参加いただき、滞りなく実施することができた。

また、本年2月には神戸ブロック主催の本格的なオンライン研修会を開催した。こちらも多くの方々の参加を賜り、活発な意見交換の場を提供することができた。

これらオンライン開催ならではの利点もあり、その活用を今後も深化させていきたいと考える。

2022年度においても、コロナ終息の見通しは立たず、同様の状況が続くと思われる。大幅に事業を拡大することは困難であると思うが、そのような中でも内容を十分に検討し、また工夫をこらしながら、各種活動の促進を図っていきたい。

2 事業報告

(1) 第16回総会：書面評決（オンライン開催）

2021年6月12日（土）10：00～10：45

回答数：323名（書面評決：22名、委任状：301名）、オンライン参加者：28名

〔ブロック会員数（2021年3月31日付）：531名〕

第1号議案～第5号議案 賛成多数で可決

(2) オンライン交流会（オンライン開催）

2021年6月12日（土）11：00～12：00

参加者：16名

(3) オンラインお月見会～ブロック交流会～

2021年9月17日（金）20：00～21：00

参加者数：12名

(4) 第20回 兵庫社会福祉セミナーin神戸（オンライン開催）『ソーシャルワーカーの働き方改革』

2021年10月23日（土）12：15～17：00

参加申込み者数：114名、当日参加者数：101名、神戸ブロックスタッフ：6名

■プログラム1）シンポジウム：ソーシャルワーカーの働き方改革

シンポジスト：神戸市福祉局副局长 上田智也氏

関西学院大学人間福祉学部教授 池埜聡氏

神戸合同法律事務所弁護士 増田祐一氏

座長：神戸ブロック理事 溝田弘美氏

■プログラム2）分科会

①神戸ブロック『ソーシャルワーカーのためのマインドフルネス：基礎と実践』

講師：関西学院大学人間福祉学部教授 池埜聡氏

②ソーシャルワーク研究委員会『令和版 相談援助でお悩みのあなたへ』

③独立型社会福祉士支援委員会『倫理学習会～意思決定支援について』

(5) オンライン研修『学ぼう！障害者総合支援法』

2022年2月19日（土）14：00～15：30

参加者数：59名 講師：きたすま障害者相談支援センターセンター長 三木卓也氏

(6) 神戸ブロック理事会の開催

月	日	参加者数	会場	内容
5	9	4名	事務局	総会議案集送付作業
5	21	10名	Zoom	総会、社会福祉セミナー、納涼会について等
6	6	10名	Zoom	総会、社会福祉セミナー、お月見会について等
7	16	7名	Zoom	社会福祉セミナー、お月見会について等
8	20	10名	Zoom	社会福祉セミナー、お月見会について等
9	17	10名	Zoom	社会福祉セミナー、お月見会について等
10	15	8名	Zoom	社会福祉セミナー最終打合せ、2月の研修について等
11	19	7名	Zoom	社会福祉セミナー振返り、2月の研修について等
12	17	7名	Zoom	2月の研修、次年度の事業計画について等
1	21	6名	Zoom	2月の研修、次年度の事業計画について等
2	19	7名	Zoom	次年度総会、こうのとり通信原稿について等
3	18	9名	Zoom	次年度総会、事業計画、役割分担について等

阪神地区ブロック

1 総括

阪神地区ブロック（以下「ブロック」という）は、ブロック設立15年目を迎え、ブロック活動への参加促進、ブロック会員間の交流・ネットワーク構築などを重点課題として、様々なブロック全体活動および各部会活動を展開した。

ブロック全体事業では、5月「ブロック総会」はオンラインと集合のハイブリッド形式で開催し、10月の学習会は「コロナ禍におけるマインドフルネス」と「障害のある家族と奏でる人生」をテーマに2回開催した。

また、国家試験対策委員会とともに、初めて神戸ブロック、西はりまブロックとも協働し、10月～1月に「自主ゼミ」をオンライン（ZOOM）にて7回開催し、11名受講者があった。

阪神ブロックの集い場は1月に「オンライン新年会」2月に「クリニカルアート体験（芦屋・西宮部会）」3月に「ナイトカフェ（川西・猪名川部会）」の3回開催することができた。

コロナ禍であっても、身近な地域での学習会での専門性の研鑽、会員間の顔の見えるつながりづくりにオンラインなどのツールを使いながら開催することができたことは評価している。

部会活動では、障がい福祉部会や地域包括支援センター部会、生活困窮者部会、災害支援部会において兵庫県社会福祉士会活動への協力を積極的に行った。

2 事業報告

1. 組織運営

- ①ブロック総会 書面評決（275通）により承認（会場参加10名、オンライン参加50名）
- ②ブロック役員会 7月14日、9月15日、11月18日、1月29日、3月16日
（計5回）すべてオンライン（ZOOM）にて開催

2. ブロック全体事業

- ①5月29日 阪神ブロック総会 書面評決にて承認
- ②7月11日 ヨーガ体験講座（中止）
- ③10月1日 ブロック学習会「コロナ禍におけるマインドフルネス」
講師：関西学院大学 池埜 聡先生（オンラインにて開催・57名参加）
- ④10月22日 ブロック学習会「障害のある家族と奏でる人生」（宝塚市男女共同参画センター）
講師：関西学院大学非常勤講師 井上 みえ先生（ハイブリッド式にて開催・52名参加）
- ⑤10月～1月 自主ゼミ（7回・オンラインにて開催・11名参加）
- ⑥1月29日 新年会（オンラインにて開催）（25名参加）
- ⑦2月12日 クリニカルアート研修（6名参加）
- ⑧3月14日 ナイト・カフェ（ガラシア病院におけるホスピスケア）（24名参加）

3. 部会活動

- (1) 障がい福祉部会
兵庫県社会福祉士会の障がい福祉委員会に参加・協力した。
- (2) 地域包括支援センター部会
 - ①兵庫県社会福祉士会の地域包括支援センター支援委員会に参加し、兵庫県委託事業「困難事例対応力向上研修」に協力。
 - ②宝塚市地域包括ケア研究会への協力（共催）
- (3) 生活困窮者部会
兵庫県社会福祉士会の生活困窮者支援委員会に参加・協力した。
- (4) 災害支援部会
兵庫県社会福祉士会の災害支援委員会に参加・協力した。
- (5) 尼崎部会（開催なし）
- (6) 芦屋・西宮部会（②中止・⑦）

(7) 宝塚・伊丹・三田部会（開催なし）

(8) 川西・猪名川部会（⑧）

4. 事務局

①研修担当 研修会の企画、運営を行った。

②広報担当 こうのとり通信「阪神ブロックインフォメーション」への掲載。

③パソコンネットワーク担当 会員および役員のML 運営やHP 管理を行った。

④初任者イベント担当 初任者向けの学習会などイベントを検討した。

⑤阪神自主ゼミ担当 国家試験対策委員会、神戸ブロック・西はりまブロックと協働し「自主ゼミ」開催

5. 兵庫県社会福祉士会への協力

① J R 西日本相談センターへの協力（会員の派遣と社員研修への協力）

② 障害者差別解消相談センターへの協力

③災害支援者研修支援事業への協力

東播地区ブロック

1 総括

東播地区ブロックは、明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町の南播磨と、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町の北播磨の 8 市 3 町のエリアを区域として、地域に根差した活動を行ってきた。大きな目標は、2021 年度も引き続き、「行けば会える」「点がつながり、線を広げる」をブロック活動の軸として、分野や世代・キャリアを超えたネットワークの拡大を図っていくことであった。社会福祉士として専門分野の視点だけでなく、ソーシャルワークを基盤とした幅広いジェネリックな視点を持ち、この東播地域で活動しやすいようにいろいろな人々とのつながりを広げ、信頼関係を深めていくことを目標として、ブロック活動に取り組んできた。

2021 年度もコロナ禍の影響により、集合形式では事業を実施できなかったが、事業を中断することなく、Zoom のオンラインによる形で、ブロック総会、集い場、自主企画研修、理事会のすべてをオンラインで実施できたことは、我々としても大きな自信となった。ブロック事業の参加者も Zoom による交流活動や研修に抵抗が少なくなってきた印象もあり、今後も益々オンラインでの活動が中心となると考えている。

ブロック活動のメインである集い場は、年 9 回継続して実施できたが、ブロック活動の参加者を増やしていくという課題はなかなか改善できなかった。参加したくなるような事業の立案、ブロック活動を広く知ってもらうこと、事業の応募方法の工夫など再検討しながら、次年度の事業を進めていきたい。

2 事業報告

(1) 東播地区ブロック 2021 年度「第 13 回総会」

Zoom によるオンライン開催（書面議決）

令和 3 年 5 月 30 日（日） 13：00～13：45

(2) 東播地区ブロック理事会の開催（6 回）

2021 年 4 月 5 日（木） 19：00～20：00	Zoom によるオンライン会議 ・2021 年度第 13 回東播地区ブロック総会の準備、役員改選、年間事業計画、県理事会の報告
2021 年 6 月 8 日（火） 19：00～20：00	Chatwork によるオンライン会議 ・集い場の検討企画、県理事会の報告
2021 年 10 月 11 日（月） 19：00～20：00	Zoom によるオンライン会議 ・集い場の進捗状況、自主企画研修の検討企画、県理事会の報告
2021 年 12 月 13 日（月） 19：00～20：00	Zoom によるオンライン会議 ・役員の改選、集い場の進捗状況、自主企画研修の検討企画、県理事会の報告
2022 年 1 月 17 日（月） 19：00～20：00	Zoom によるオンライン会議 ・自主企画研修の検討企画、県理事会の報告
2022 年 3 月 1 日（火） 19：00～20：00	Zoom によるオンライン会議 ・自主企画研修の当日運営確認、2022 年度総会の検討、2022 年度集い場の検討（次年度）、県理事会の報告

(2) 東播地区ブロック 集い場の開催 (9回)

2021年5月30日(日) 13:55~14:55	第1回集い場 (Zoomによるオンライン開催) ・2021年度東播ブロック総会後に開催。 ・参加者:16名。3グループに分けてフリートークの交流会。
2021年7月14日(水) 19:00~20:00	第2回集い場 (Zoomによるオンライン開催) ・参加者:6名。フリートークの交流会。
2021年8月21日(土) 18:00~19:00	第3回集い場 (Zoomによるオンライン開催) ・参加者:5名。フリートークの交流会。
2021年9月21日(火) 19:00~20:00	第4回集い場 (Zoomによるオンライン開催) ・参加者:4名。フリートークの交流会。
2021年10月16日(土) 19:00~20:10	第5回集い場 (Zoomによるオンライン開催) ・テーマ:SSWの現状と課題、連携について。 ・ゲスト:子ども家庭支援委員会(福井良江氏)。 ・参加者:11名。
2021年11月21日(土) 19:00~20:30	第6回集い場 (Zoomによるオンライン開催) ・参加者:3名。フリートークの交流会。
2021年12月19日(日) 19:00~20:30	第7回集い場 忘年会 (Zoomによるオンライン開催) ・参加者:4名。飲食物各自用意、フリートークの交流会。
2022年1月15日(土) 19:00~19:50	第8回集い場 忘年会 (Zoomによるオンライン開催) ・参加者:4名。フリートークの交流会。
2022年2月19日(土) 19:00~20:30	第9回集い場 (Zoomによるオンライン開催) ・参加者:3名。フリートークの交流会。

(3) 研修会等の開催 (1回)

2022年3月13日(日) 13:30~16:30	令和3年度自主企画研修 Zoom オンライン研修 テーマ:東播磨で頑張るSWを応援してくれる 「ひと」や「活動」を紹介する集い ①講演 「高齢者のお住まいを通じた見守りサービス」 (講師)佐(たすく)工務店 代表:岩佐 薫 氏 「ソーシャルワーカーが元気になる話」 (講師)かかりつけカウンセラー&司法書士 こたか 真子(なおこ) 氏 ②参加者交流会 ○参加者:合計13名
------------------------------	--

(4) 広報ネットワーク活動

- ① 東播地区メーリングリスト
- ② Facebook (フェイスブック)
- ③ 会員向けの県本会広報誌「こうのとりの通信」の活用(当ブロック事業の広報、事業の報告)
- ④ 市民向けの広報誌「兵庫県社会福祉士会」の配布
(当ブロック内の行政窓口、社会福祉協議会、地域包括支援センター等)
- ⑤ 東播地区ブロック理事会でChatworkを使った情報共有、Zoomによるオンライン会議
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症拡大の対応として、Zoomによるオンライン自主企画研修

西はりま地区ブロック

1 総括

今年度は新型コロナウイルスの蔓延により昨年度同様ブロック活動も制限する状況となったが、Zoomを活用した役員会や交流会を積極的に行う事となった。毎月最終金曜日の19:00よりZoomを用いた交流会とミニ勉強会を開催し延べ190名の参加があった。2021年度より国試対策自主ゼミへの開催協力を行い、延べ31名の役員が参加した。NPO法人フードバンクはりまが開催するフードドライブに役員等の派遣を行い延べ11名参加した。ひろはたこども食堂へ延べ12名の役員派遣し、無料相談会を開催した。西はりまブロック研修会をZoomにて3回開催し、地区ブロック内外、県外も含め、延べ78名の参加者があった。今後もオンラインを活用した取り組みを進めていく。

2 事業報告

(1) 2021年度 一般社団法人兵庫県社会福祉士会
西はりま地区ブロック総会
記念講演 NPO法人 フードバンクはりま
理事長 辻本 美波 様
「食品ロスと空腹の人、双方を減らすための挑戦」
日時：2021年5月16日

(2) はじめのいっぽ開催協力
日時：2021年6月26日(土) Zoom開催
内容：「会員交流、西はりまブロックの紹介」

(3) 第1回 会員交流事業納涼会開催協力
日時：2021年8月28日(土) Zoom開催
内容：「会員交流、西はりまブロックの紹介」

(4) ブロック役員派遣
日時：2021年9月30日(木) 姫路市地域福祉計画推進懇話会 清水敦子

(5) 忘年会開催協力
日時：2021年12月18日(土) Zoom開催
内容：「会員交流、西はりまブロックの紹介」

(6) 西はりまブロック交流会②～⑬帰ってきたプレミアムフライデー&ミニ勉強会
日時：2021年4月30日(金)より原則毎月最終金曜19:00～開催
内容：会員の交流、情報交流、勉強会 参加者のべ190名

(7) 役員会(研修会打合せ等)の開催
(4/17 上郡にて開催)
(4/28 Zoomにて開催)
(11/18 上郡にて開催)
(12/4 Zoomにて開催)

(8) 国試対策自主ゼミ開催協力
(6/22 Zoom会議 11名参加)
(7/20 Zoom会議 1名参加)
(9/22 Zoom会議 7名参加)

(10/8 福祉行財政 1名参加)
(10/22 高齢者福祉 2名参加)
(11/12 社会理論 2名参加)
(11/26 権利擁護 2名参加)
(12/10 障害福祉 2名参加)
(1/14 低所得者 2名参加)
(2/10 自主ゼミ振り返り 2名参加)

(9) NPO 法人フードバンクはりま フードドライブ協力
(6/21 姫路市役所ロビー 2名)
(7/8 太子町役場ロビー 1名)
(7/9 太子町役場ロビー 2名)
(9/14 福崎町役場ロビー 2名)
(9/15 福崎町役場ロビー 2名)
(11/21 アクリエ姫路 2名)

(10) 西はりまブロック役員による無料相談会

(9/11 ひろはたこども食堂内 役員4名 相談件数2件)
(10/9 ひろはたこども食堂内 役員2名 相談件数1件)
(11/6 ひろはたこども食堂内 役員2名 相談研修1件)
(12/11 ひろはたこども食堂内 役員2名 相談研修1件)
(1/8 ひろはたこども食堂内 役員2名 相談件数0件)

(11) 西はりまブロック研修会①

ピンチをチャンスに転換できる「ほめ達」になろう!!!

講師：溝田 弘美 氏 神戸ブロック理事
社会福祉法人 弘陵福社会 理事長
特別養護老人ホーム 六甲の館 施設長
ほめ達特別認定講師、防災士
日本ノーリフト協会 兵庫支部 支部長
(12/4 Zoom 開催) 17名参加

西はりまブロック研修会②

薬剤師さんと話そう～地域生活の連携～

講師：薬剤師 森保 貴典 氏
(一社) 姫路薬剤師会 理事
ゴダイ(株) 調剤事業部 在宅推進室長
(1/23 Zoom 開催) 19名参加

西はりまブロック研修会③

こども家庭支援の現状とこれから

講師：津田 克己 氏
社会福祉法人 白百合学園 理事
児童家庭支援センターしらゆり センター長
児童養護施設 グイン・ホーム 施設長
特定非営利活動法人 神戸こども食堂ネットワーク 理事
(2/13 Zoom 開催) 42名

但馬地区ブロック

1 総括

本年度は年度当初から再び新型コロナウイルス感染症が拡大し、緊急事態宣言の再々発出となってしまった。今後これまで以上に但馬ブロック活動を活性化していくための方策として、会員間の交流並びに情報交換の必要性が求められ、対面での交流・情報交換はもちろん大切だが、コロナ感染リスクの完全な終息は未だ見込めず、なかなか進めることが困難と考えられる。

このような状況の中、地理的広範囲の但馬地域のデメリットを克服するための手段としても、電子メールでの情報伝達交換、並びにオンラインでの会議、研修を利用していくことがよいのではないかとの意見が多く聞かれた。この動きは兵庫県社会福祉士会でも進めているところでもあり、改めて但馬ブロックとして電子メールによる情報伝達の基本整備のため、ブロック会員のメールアドレス名簿整備を行った。

また、新型コロナウイルスの影響による社会変化への対応の方向性は、これまで但馬地域で進めてきた、医療・介護・福祉を中心とした多職種連携の方向性に一致する。今後より具体的に多職種連携を推し進め、ますます弱体化していく医療サービスをいかに有効に活用していくのかを検討し、但馬地域全域で安心・安全な社会生活を確保していくためのネットワーク構築に向け、社会福祉士としての専門性を生かした活動をしていかなければならないと考える。

2 事業報告

1. ブロック総会

日時：令和3年5月29日（土）
午後8：00～

場所：各自宅

方法：Zoomによるオンライン会議

2. ブロック会員のメールアドレスの名簿整備

時期：10月

方法：返信ハガキに最も利用しやすいメールアドレスをご記入し、事務局に返送

3. 特別学習会

日時：令和4年3月5日（土）
AM9：00～12：00

場所：オンライン（zoom）

内容：「ソーシャルワーカーが葛藤を乗り越えるエッセンス」

講師：神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学科
准教授 川村 隆彦 氏

4. その他共催事業

（1）但馬地域医療連携シンポジウム

日時：令和3年10月16日（土） 15:00～16:30

場所：Web 配信（Microsoft Teams）

内容：『医療介護連携を目指した ICT ツールの活用について』
～connect8 の事例をふまえて～

講師：はちのへファミリークリニック 理事長 小倉和也 氏

（2）但馬地域医療連携シンポジウム

日時：令和4年3月12日（土） 15:00～16:30

場所：豊岡市民プラザ 兵庫県豊岡市大手町45 アイティ 7F
ハイブリッド開催（ZOOM）

内容：日本海 HealthCareNet の事業からみた
地域医療の未来図

講師：日本海総合病院 理事長 日本海ヘルスケアネット 代表理事 栗谷義樹 氏

丹波地区ブロック

1 総括

昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、従来の活動を縮小せざるを得ない状況であったが、全ての事業をオンライン化し、研修会、交流会の開催を通して、会員間ネットワークの強化に取り組むことができたのは新たな成果であった。今後においても、オンラインによる活動を併用しながら、ブロック活動の充実を図っていきたい。

2 事業報告

- (1) 令和3年度 一般社団法人兵庫県社会福祉士会丹波地区ブロック総会
日時：令和3年5月29日（土）書面議決

- (2) 交流会 日時：令和3年5月29日（土）16：45～17：30
場所：オンライン形式（zoom）
内容：意見交換及び会員交流

初任者研修・交流会

日時：令和3年7月11日（日）16：00～18：00
場所：オンライン形式（zoom）
内容：①会員実践発表「社会福祉士の仕事っぷり」
発表者：大槻真也、林佳美、荒木弘子
②交流会

研修・交流会

日時：令和3年12月5日（日）16：00～18：00
場所：オンライン形式（zoom）
内容：①講演「ヤングケアラーの実情と支援について」 講師 岡本和久氏
②交流会

- (3) 社会福祉士によるまちかど福祉、介護無料相談会・活動展示会
感染拡大防止のため、今年度は実施せず。

- (4) 役員会

令和3年4月12日（月）、5月20日（木）、6月23日（水）、10月5日（火）、
令和4年3月18日（金）
※zoomによる開催

- (5) その他

丹波市権利擁護支援センター（仮称）設立準備委員会に中川優一ブロック長が委員として参加した。
令和3年6月24日（木）、9月21日（火）、令和4年1月27日（木）

淡路地区ブロック

1 総括

当ブロックは設立当初より「ネットワーク作り」や「仲間作り」をテーマに活動をしてきた。2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、従来通りの活動が出来なかったが、オンライン（Zoom）を活用し、役員会、研修会を開催することができた。2022年度も新型コロナウイルス感染症の状況を見極め、感染防御しながら、オンラインも利用し、コロナウイルス感染症前に世の中が戻ることを期待し、ネットワーク作りや仲間作りを行っていききたい。

2 事業報告

(1) 組織運営

①淡路ブロック総会

日時：2021年5月15日 書面議決

内容：2020年度事業報告、2020年度決算報告
2021年度事業計画、2021年度予算に関する採決

②役員会

<随時>オンラインでの打ち合わせ

<第1回>

日時：2021年12月3日（金）20：00～22：00 Zoom

内容：淡路ブロックの運営について・研修会について

(2) 事業

①研修会「淡路三市社協事務局長が語る～コロナ禍の地域生活支援～」

日時：2022年2月19日（土）10：00～11：30 Zoom

参加：17名

講師；淡路市社会福祉協議会 凧 保憲 事務局長
洲本市社会福祉協議会 城田 智志 事務局長
南あわじ市社会福祉協議会 山口 勇樹 事務局長

内容：①コロナ貸付制度
②コロナ禍での社協について
③質疑・感想・意見交換等

(3) その他

①まちかど無料相談会・活動展示会の実施

今年度も洲本社協まつり中止に伴い、中止

②淡路圏域リハビリテーション部会

※淡路圏域のPT・OT・STの研修会立案等

実務者会議 毎年、年4回参加していたが、今年も中止